

KYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭をプラットフォームとした次代のクリエイター育成事業

(実施団体:一般社団法人 KYOTO EXPERIMENT)

目的・目標

日本の舞台芸術分野において、海外では一般的である専門的人材としてのキュレーターは未だ少ない。KYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭は、創設当初よりキュレーションに責任を持つディレクターを置いてきた国内でも数少ない舞台芸術祭であり、世界中の芸術関係者の注目を集めてきた。本事業では、京都国際舞台芸術祭を育成の場として、次代のキュレーターを世界的に活躍できる人材として育成する。これによりアーティストの海外展開や海外との協働に繋げ、我が国の文化芸術の国際的プレゼンス向上に資することを目的とする。

概要

本事業では上記目標を達成するため、以下の5つの活動を、相互にシナジーを生み出すように設計し、実施する。

- 1.ショーケース企画を通じた次代のディレクター育成
- 2.海外キュレーター招聘による国際ネットワーク拡充
- 3.プロデュース作品の海外上演を通じたアーティスト育成
- 4.国際的なプロデューサー、テクニカルディレクター育成
- 5.批評プロジェクトによる評論家育成

3年目までの取組

次代のプログラムディレクター候補であるキュレーターが、毎秋に開催するKYOTO EXPERIMENTの会期中にショーケース公演を企画・上演する。同時に、海外からの著名なキュレーターの招聘、海外での作品上演に向けたプロデューサー、舞台スタッフ、演出家の育成、国際的な批評を行える評論家の育成を行う。また、海外の劇場や芸術祭とのネットワークを構築・強化し、プロデュース作品の海外上演も行う。



松本奈々子、西本健吾 / チーム・チープロ『女人四股ダンス』(2022)
撮影: 岡はるか

5年目までの取組



KYOTO EXPERIMENT 2022 特設ミーティングポイントでの国際交流の様子
展示物制作: CMTK (Chihiro Mori & Teppei Kaneuji)

3年目までのディレクター育成の成果を踏まえ、KYOTO EXPERIMENTの新プログラムディレクターを決定。5年目には新プログラムディレクターと、育成した新プロデューサー・テクニカルディレクターの下、世界から注目される国際舞台芸術祭としてKYOTO EXPERIMENTを開催する。また、育成スタッフが中心となる形で、海外で8~10箇所程度の上演を目指す。これらにより海外上演経験を積んだアーティストには、海外からの新作委嘱が2~3件程度あることを目指す。

中核となるクリエイターやアドバイザー

川崎陽子

舞台芸術プロデューサー。2020年よりKYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭共同ディレクターを務める。令和5年度(第74回)芸術選奨文部科学大臣新人賞(芸術振興部門)受賞。



育成対象者: 39人

キュレーター: 3名 プロデューサー・舞台スタッフ: 各2名
評論家: 9名程度 演出家: 23名程度

※現在確定済み12名(キュレーター、プロデューサー、舞台スタッフ、演出家のうち5名)。

残り27名は選考を経て決定。

(分野・ジャンル)
舞台芸術(演劇)

(渡航先の国・地域)

ヨーロッパ・アジア・北米・オセアニア(2025-2026年)

(国内外の連携・協力体制)

- ・Asia Pacific Festivals Connection
- ・京都国際舞台芸術祭実行委員会

【構成団体】京都市、ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、京都芸術センター(公益財団法人京都市芸術文化協会)、京都芸術大学 舞台芸術研究センター、THEATRE E9 KYOTO(一般社団法人アーツシード京都)
・その他海外フェスティバル・劇場

成果目標(見込)

目標値

企画段階から海外公演等までに登用される若手クリエイター等の数	39人
国内外の団体・企業等との連携数(連携団体数、事業提携数、拠点形成数など)	28件
プロジェクトに関わる海外アーティスト・キュレーター等の数	12人
国内外で展開される公演・展示等の数	29回
国内外で展開される公演・展示等の入場者数	4,800人

【補足資料】

指導者

指導者

指導者

指導者

育成対象：キュレーター

ショーケース企画

育成対象であるキュレーター達が、それぞれの活動の背景や特色を活かし、複数のアーティストの作品を集中的に紹介する「ショーケース公演」をキュレーションする。KYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭のプログラムの一部として実施し、海外から招聘するキュレーターたちに、日本のアーティストを紹介すると共に、次代のディレクター候補による独自のキュレーションをアピールする機会となる。

会場：京都芸術センター フリースペース
(R6年度)

※翌年以降は演目の内容に合わせて検討

育成対象：アーティスト

海外上演

これまでにKYOTO EXPERIMENTで創作・発表した作品がきっかけで世界に羽ばたいたアーティストは多い。これにより本フェスティバルは、国際的なネットワークや、世界の芸術関係者から評価と注目を集めている。本企画では、これまでにプロデュースした舞台作品を海外で上演することを通して、世界的に活躍するアーティストを育成する。

交渉予定の劇場・芸術祭：Asia Pacific Festivals Connection 参画団体 [ソウル国際舞台芸術祭 (韓国)、National Theatre and Concert Hall, Taipei (台湾)、バンコク国際パフォーミングアーツ・ミーティング (タイ)、シンガポール国際芸術祭 (シンガポール)、Asia TOPA (オーストラリア)、パース・フェスティバル (オーストラリア)]、ほか

育成対象：批評PJ応募者

批評プロジェクト

日本の現代舞台芸術作品を世界に発信していくにあたり、それらの作品の意義や文脈を言語化し、国際的な舞台芸術の潮流も踏まえながら発信できる評論家を育成していくことが重要である。本活動では、KYOTO EXPERIMENTで上演する舞台芸術作品についての批評を募集する。選出された批評文に対して、指導者がメンターアドバイスを実施。2ヶ月程度のブラッシュアップ期間によって、育成対象者が国際的な視野を踏まえて日本の舞台芸術について発信できるスキルを体得するものである。評論家の育成と同時に当団体プロデュース作品についての批評の蓄積にも繋がり、海外上演の機会拡大にも寄与する。

育成対象：プロデューサー、テクニカルディレクター

ショーケースや海外上演の現場を通して、キュレーターやアーティストに加えて、プロデューサーやテクニカルディレクターといったスタッフの育成もおこなう。